

秋冬定期接種開始を前に情報をアップデートしよう！

新型コロナウイルス感染症 ワクチンシンポジウム

免疫学、栄養学の専門家から学ぶ

新型コロナウイルス感染症と 新しく導入されるワクチンの最新情報



村上 康文 氏
東京理科大学名誉教授



小島 勢二 氏
名古屋大学名誉教授



豊田 孝行 氏
医師・農業者

「事実を知る」

高齢者を対象とした新型コロナワクチンの定期接種が始まりましたが、令和3年の接種開始から3年が過ぎ、接種について疑問や不安を持たれている方も多いのではないのでしょうか。

本シンポジウムでは、新型コロナウイルスや10月からの定期接種で新たに導入されたワクチンの最新情報、これまでにわかってきた事実、後遺症の現状と対策などについて、3名の先生方からお話いただきました。

第一部は一般の方向け、第二部は医療従事者向けに開催し、先生方と市長とのディスカッションなど、活発な意見交換を行いました。

事実を知り、自ら考えること。その重要性が詰まったシンポジウムとなりました。

【シンポジウム概要】

開催日：令和6年9月28日

場所：テクスピア大阪 大ホール

内容：3人の講師と市長からの講話

市長と講師のディスカッション

第一部：一般の方向け

第二部：医療従事者向け



泉大津市長 南出 賢一

当日のシンポジウム
動画はこちらから



この秋のコロナワクチン定期接種について考えてみましょう！

今年10月から高齢者を対象に定期接種が始まります。今回使用されるワクチンですが、従来型のmRNAワクチン3種と組換えタンパクワクチン1種、新しい自己増幅型mRNAワクチン1種の合計5種類が承認されています。すべてJN.1変異型というスパイクを使用しています。

mRNAワクチンの問題点として、繰り返し接種するとIgG4という抗体が誘導され免疫を抑制してしまうことが分かっています。免疫が抑制されるので、感染してもウイルスを除けず長引いたり、発熱反応等が起きづらくなるので感染に気づかず、感染拡大につながってまいります。その結果、打てば打つほど感染するという現象が起きてしまうのです。

今回新たに承認された自己増幅型mRNAワクチンは従来型とは違って全く新しい方式で作られており、注射されたmRNAが細胞内でどんどん増えていくというものです。本格的に実用化されるのは日本が初めてになります。mRNAが細胞内で複製されるので、スパイクタンパクがいつまで産生されるかわからないということになります。これらの点も踏まえて、ワクチン接種について慎重なご判断をしていただければと思います。

※mRNAワクチン：スパイクタンパクを作るもとなる遺伝情報の一部を注射して免疫を作るタイプのワクチン

※スパイクタンパク：ウイルスがヒトの細胞へ侵入するために必要なタンパク質

コロナワクチンの効果を検証 データに基づき自ら考えることが大事

コロナワクチンの効果について、改めて皆さんと一緒に考えてみたいと思います。重症化予防効果を検証するには、例えば、未接種者と接種者の死亡率の違いを解析できれば良いですね。イギリスではそのようなデータが開示されているので見たところ、接種者の方が未接種者よりも死亡率が低いということではなく、「ワクチンの効果があった」とは言えませんでした。また、日本でもいくつかの市町村でデータが開示されているのでデータを解析したところ、イギリス同様、ワクチンの効果を確認することはできませんでした。

コロナが流行し、まだワクチン接種が始まっていない2020年、日本のコロナによる死亡は、アメリカやイギリスと比べて非常に少ないものでした。その後ワクチン接種が



村上 康文 氏
東京理科大学
名誉教授



小島 勢二 氏
名古屋大学
名誉教授

始まり、5回目が終了した2022年頃には日本の死亡者数は急激に増加しました。それに対して、追加接種を進めなかったアメリカやイギリスでは減少したのです。世界で一番接種をした日本が、世界で一番コロナによる死亡者が増えてしまいました。

がんについても話をすると、日本のがんによる死亡は、年齢調整をすると2020年まで減ってきていたのです。ところが、2021年以降反転して増え出しました（特に卵巣がん、膵臓がん、白血病、前立腺がん）。増加の原因についても分かっていますが、やはりワクチンの影響が考えられています。

以上のように、様々な事実としてのデータがあります。自分の身を守るためには、メディアなどが言っていることと、これらのデータを比べて、自身で考えることが大事だと思います。

栄養状態・腸内環境を整えることが、 免疫機能や健康維持に極めて重要！

泉大津市の後遺症改善プログラムで、これまで約200名の方に関わってきました。お子さんから高齢者まで、言い出すと切りがないぐらい様々な症状を持った方が、助けを求めて来られています。

私はプログラムで栄養相談を担当しています。人の免疫システムのベースは栄養です。コロナ感染やワクチン接種により体内で炎症が起こると、炎症を抑えて体を守ろうとするので、栄養をどんどん消費します。そのため、後遺症対策には栄養状態をしっかり整えることがとても大事です。しかし、皆さん栄養不足なんです。例えば、ビタミンDは免疫機能の調節に必要ですが、日本人の98%が不足していると言われていました。

栄養状態を整えるためには、腸活も大事です。腸内環境が悪いと栄養の吸収ができないからです。また、体の免疫の7割は腸で管理されているので、腸内環境を整えることで免疫機能、そして精神が安定すると言われていました。

そして、本当に気をつけてもらいたいことですが、不安、恐怖、怒りなどの精神的ストレスが一番栄養を消耗します。栄養の無駄遣いをしてしまうわけです。これからの時代、自分の体は自分で守っていく時代だと思っています。人の体は自分で治そうという力があります。細胞は入れ替わります。諦めずにやり続けたら良くなっていきます。医療従事者の皆様には、不安いっぱいに来られた患者さんに対して、できるだけ希望を与えるお話をして「一緒に頑張りましょう」と言ってほしい。そういう場所であってほしいなと思います。



豊田 孝行 氏
医師
農業者（自然農法）

コロナワクチンの影響と後遺症 データが示す真実

私ももう200人ぐらい後遺症で悩んでいる方のサポートを行ってきました。症例が多過ぎて本当に怖いんです。いわゆる自己免疫疾患、免疫が完全に壊れてしまった人も一部いるように思います。本当に難しいですが、治る力を信じてサポートを続けることで、日常生活ができるところまで回復している人は増えています。

日本の超過死亡は、コロナが発生した2020年は減少しました。コロナの薬もなかったのに。しかし、ワクチン接種が始まった2021年以降急激に増加しました。コロナ死を除いた死亡者数も異常な増え方をしています。

これはやはりおかしいと気づき、2022年から泉大津市で亡くなった方のデータを私自身が個人情報配慮しながら集め、最終接種日から死亡日までの期間を分析すると、5か月目がグラフのピークで8か月目まで山が高い。ワクチンの影響がなかったら山は平らなはずなんです。これはとても重要なデータで、全自治体が調査をしたら同じような傾向が出ると思います。

令和5年度の健康被害救済制度の給付に関する国の予算は、当初3億6,000万円でしたが、年度末には394億円に増額されました。110倍です。予想もしないぐらい被害が認定されたということです。1977年2月から約45年間の全ワクチン接種による死亡と認定されたのは158件です。これがたった3年間の新型コロナワクチン接種で死亡と認定をされているのが843件です。これほど多いコロナワクチンの死亡認定ですが、おそらく申請に至っていない人が多いのではないのでしょうか。国への救済制度申請は複雑で、お金も体力も使います。諦めている人、気づかずに亡くなった人も多いで



泉大津市長
南出 賢一

しょう。

泉大津市では、健康被害を受けた人には独自の健康被害支援制度を創設し、手厚いサポートを行っています。さらには、皆さんが情報を得て判断し、選択する力を身につけることができるよう、勉強会などを行っています。今後も引き続き、皆さんに最新の事実を伝え、後遺症に悩み、泣き寝入りする人がでないよう、取り組んでいきます。

Discussion

市長×講師 ディスカッション

南出：昨年今年と夏にインフルエンザが流行りましたが、どのような原因が考えられますか？

村上：普通だと、一方が増えるとその免疫系が活性化されるのでコロナとインフルエンザが同時に感染拡大することはあり得ないんです。やはりmRNAワクチンによって免疫系がおかしくなっていると思います。

小島：コロナが流行した2020年にはインフルエンザは流行らなかったんですね。それがワクチン接種を始めてからはインフルエンザだけでなく色々なウイルスが流行しています。

豊田：栄養状態が良くないので、免疫自体も全般的に下がっていますね。感染症を起こしやすかったり、精神状態が安定しなかったり。

南出：栄養状態を整えるためには、良いものは体に入れて、余計なものは入れない。両方大事ですよ。

豊田：そうです。余計なものを出す時に、栄養を使ってしまうので、体を維持するための栄養が残ってなくて、どんどん体が弱ってきているのが現状かと思います。

南出：なるほど。余計なものを体から出すのにも栄養がいる。栄養の無駄遣いですね。そしてそもそも栄養が足りていないから出すこともできないということなんですね。

豊田：そうですね。はい。

新型コロナウイルス感染症・ワクチンのわかってきた最新の事実

- 新たに承認された自己増幅型mRNAワクチンが実用化されるのは日本が初めて。
- 接種により体内で作られたスパイクタンパクが細胞から発現すると、中和抗体を作るだけでなく、自身の細胞を免疫が異物とみなして攻撃し、それが副反応につながる。また、繰り返し接種することで、IgG4抗体が誘導され、免疫を抑制してしまう。
- 2021年以降、がんによる死亡が増加したが、特定のがんについては、新型コロナワクチンの影響が懸念される。自分の身を守るためにはデータなどを参考に自分で考えることが大事。
- 世界で一番追加接種を繰り返した日本が、世界で一番新規感染者数が多い。(人口10万人あたり)
- 新型コロナワクチン予防接種健康被害救済制度における死亡認定件数は903件。(2024年11月18日時点)
※1977年2月から約45年間の新型コロナワクチン以外の全ワクチンの死亡認定件数は158件。
- 特例臨時接種からB類疾病の定期接種になり、国の健康被害救済制度による補償内容は縮小。
- 免疫システムのベースは栄養。大切なのは、ビタミン・ミネラルなど体に必要なものは入れ、添加物など体に負荷がかかるなものは極力入れないこと。腸内環境を整えること。ストレスをためないこと。

令和6年度 泉大津市独自のコロナ後遺症・ワクチン副反应对策

後遺症改善プログラム



統合医療に造詣の深い医師らが立ち合い、自然療法をはじめヨガや整体などの技術を用いて自己治癒力を高め、症状の緩和、改善を目指すプログラムです。

ヨガ・呼吸法セミナー



自律神経のバランス、呼吸を整え、身体の不調を改善する方法を学び、実践するプログラムです。

医師による個別相談・オンライン相談



西洋医学だけでなく、東洋医学など幅広い知識と専門性を有する医師が相談に応じます。

新型コロナワクチン健康被害支援金



新型コロナワクチン接種後に副反応（副反応疑いを含む）などで健康被害を生じ、国の予防接種後健康被害救済制度を申請される方に、申請までにかかった医療費等の費用の一部を泉大津市独自の「支援金」として支給します。

上記以外にも、健康相談（保健センター）や新型コロナワクチン接種後の体調不良や長引く副反応の相談窓口（市内5医療機関）もあります。



相談窓口・関連リンク
（市ホームページ）

新型コロナウイルス感染症・ワクチンに関する相談先

大阪府 副反応相談窓口

TEL 06-7713-1778

開設期間 令和6年10月1日～令和7年3月31日

平日午前9時～午後6時

泉大津市民の相談・問い合わせ先

泉大津市立保健センター（泉大津市宮町2-25）

TEL 0725-33-8181

平日午前8時45分～午後5時15分（年末年始除く）